

実施報告書

団体組織名

平川公民館

講座名	庭木の手入れ入門・ステップアップ講座
講座のねらい	初心者に必要な知識や技術を身に着け、生活向上に役立てていくとともに、講座を通して仲間づくりを行います。また、年に1回(庭木ステップアップ講座)庭園や造園について多少の経験のある成人を対象に、古くなった木の切り直しや、再整備が必要な庭園の対処法などを平川公民館富岡分館を会場として学習します。
講座実施内容	庭木の手入れ入門講座 5/25 ①樹木の生育について、植栽のポイント、管理方法について 6/15 ②生け垣・男結び実技について(雨天のため室内実施) 9/28 ③平川公民館の庭を使った実技・剪定 10/26 ④生け垣作りの実技富岡分館の生け垣作り 11/30 ⑤移動教室・樹木医と行くハイキング 清和県民の森セラピーコースを歩こう ・庭木ステップアップ講座 1/25【今後実施】平川公民館富岡分館周り庭木の再生
参加者の声	初心者に必要な庭木の知識や剪定技術を学ぶことができた。男結びのやり方を取得できたので、庭木や家庭菜園にでも生かしたい。台風の影響で生垣づくりができなくて残念だった。竹を使った生垣づくりを学んでも家で作る敷地がないし、竹を調達する手間や一人で作ることができない。庭木もそうだけど、果樹(柿や梅など)の剪定の仕方を学んでみたい。清和県民の森を散策しながら樹木について学び、リフレッシュすることができた。シルバー人材センターの業務に生かしていきたい。
成果と課題	庭木の正しい育て方、樹木の再生方法を学ぶことができた。生垣づくりでは、男結びなどを学ぶことができたのは良かったが、材料の調達や場所的に家庭では不向きである。生垣づくりにより庭木の剪定に果樹の剪定や育て方をプラスすると家庭はもちろん、他の場所(シルバー人材センター業務や地域ボランティア)でも更に活躍ができると思われる。
講座の様子	 第2回目  第3回目  第4回目  第5回目

生涯学習講座 HIPHOPダンス教室（低学年・高学年の部） 実施報告書

教育委員会生涯学習課

補主事 芦原 潤

1. 日 時 令和元年5月～令和2年3月 第1、2、3金曜日
低学年：17:00～18:00 高学年：18:00～19:00
2. 場 所 白子町青少年センター 視聴覚室
3. 参加者 低学年の部 28名 高学年の部 26名
4. 内容等

HIPHOPダンス教室は2017年（平成29年度）より生涯学習講座の通年の教室として開講した。講師の先生は根本珠実先生で、先生本人もダンス経験者で実績もあり、やさしくかつ丁寧に指導されている。初年度は参加生徒17名でスタートし、毎年町の行事の11月の文化祭や3月の生涯学習フェスティバルでの発表を目標に練習しており、本番では全員お揃いの衣装を着て、曲にあわせて息のあったダンスは評判である。また、児童生徒または保護者からも好評で徐々に人数を伸ばしている。2019年（令和元年度）より、講座の参加者が増えたこともあり、低学年の部と高学年の部に分け、教室を実施し、生涯学習講座で実施する講座の中でも、大変人気の講座となっている。



生涯学習講座はおおよそ3年計画で実施しており、生涯学習講座から自主活動グループ（サークル活動）へ発足の担い場となっており、ある程度教室としての基盤ができてきたら、生涯学習講座から自主活動グループとして自立したサークルへ移行してもらっている。今年度で3年目を迎えるHIPHOPダンス教室は教室としての基盤ができてきているため、今後の課題としては生涯学習講座から自主活動グループとして自立したサークルへ移行できていけるかが今後の課題でもある。

企画展「龍角寺古墳群とその時代」に関する考古学講座

講座のねらい

今年度の企画展「龍角寺古墳群とその時代」では、龍角寺古墳群が隆盛を極めて、列島最大の方墳「岩屋古墳」や古刹「龍角寺」を築くに至った飛鳥時代前期の様子について、大和との関係や飛鳥文化の受容に至る経緯を取り上げている。この内容を広く一般に理解してもらい、一方では考古学・歴史学・仏教美術の研究成果により深く触れてもらうために、それぞれの専門家を招いて4回企画した。

講座の様子

通常の講座は、風土記の丘資料館の集会室（座席数 60）で行っており、座談会やシンポジウム、記念講演等は館内の旧学習院初等科正堂（座席数 200）を会場にしている。



第1回 「前方後円墳の終焉と律令国家への胎動」



第3回 座談会「龍角寺古墳群とその時代」

参加者の声

講演後の会場からは、やや的外れの質問もあるが、講演の内容に即した講師への質問が多々あり、講師はそれぞれ丁寧に応えてくれるので充実した質疑応答となっている。講座のリピーターが多く、座席数 60 のうち半分は常連の参加者である。今年度は、資料館の講座への参加者がいずれも定員をオーバーしており、関心の高さがうかがえた。

成果と課題

今年度は、久しぶりに風土記の丘資料館担当による考古資料の企画展が開催される年に当たったので、テーマ設定がわかりやすく、会場の臨場感もあった。房総のむらの性格上、民俗を主体とする企画展が大半を占めるため、企画展とは連動しない講座をどのように進めていくか、常連の参加者をどのように定着させて増やしていくか、毎年のテーマ設定に工夫が必要である。

千葉市

若松 公民館



子どものやる気を刺激する 子どもの笑顔が地域の力になる



▲ 小学校に配布したチラシ

ねらい 子どもお菓子作りリーダー養成講座(全6回)は地域の活動に長年貢献されてきた方を講師に迎え、お菓子作りを通して、人との接し方や思いやりの心を育むことを目的としました。当館でこれまで開催してきた「お菓子作り教室」とは異なり、館主導の受け持ち講座ではなく、子どもたちに自ら考え、動くことを促しました。

実施の様子 近隣の3つの小学校の4~6年生約750人の中から応募のあった8人が、4月から毎月1回、菓子作りの基礎を学び、成果発表の場としてカフェを



▲ 手作りのチラシを手に、広報活動する様子

オープンすることを決めました。夏休み中は、メニューを考えたり、看板やチラシを作ったり、部屋の飾りつけを自主的に行い、準備を

整えました。結果、カフェは大盛況。公民館利用者や地域住民が集まり、用意した60食が2時間で完食となりました。

成果 養成講座を修了したメンバーと館の交流は現在も続いており、講座の受付や講師の助手を務めるなど、公民館の運営に協力しています。



▲ 提供したメニューについて丁寧に説明しました

大人の手はほとんどかずに、自分の手で友達と協力してつくることができた。(6年女子) / さいごにちいきのみんながくるのが楽しかった。(5年女子) / 新しい友達? みたいな人たちとカフェをやった楽しかった。(6年女子) / お菓子作りの基礎を学ばせて頂き、発表する場まで用意して下さい感謝です。子ども達の成長する姿、幸せそうな笑顔を見る事ができて、私も嬉しく感動でした! (母) / 子どもたちが生き生きと活動していて人を喜ばせる為に一生懸命で感動しました。(母)

アンケートより
(一部抜粋)

ちば講座アワード実施報告書

聖徳大学オープン・アカデミー(SOA)

■講座名	保育ブラッシュアップ講座
■講座のねらい	文部科学省“社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業”選定(平成19年度)「保育ブラッシュアップ・資格再活用プログラム」の開講実績をふまえ、聖徳大学オープン・アカデミー(SOA)公開講座において、平成24年度より継続的に企画・開講している。 保育に関する専門知識・技術のブラッシュアップを通して、取得していながら眠っている状態の免許・資格を活かし、保育現場はもとより、子どもと関わる仕事で活躍できる人材の育成および再チャレンジ支援を目指しており、聖徳大学・聖徳大学短期大学の教育資源を地域に還元する社会貢献講座と位置づけている。
■実施場所	聖徳大学 10 号館
■実施日時	【平成30年度Ⅲ期】 1/25、2/1、2/8、2/15、2/22、3/1(全6回) 【2019年度第Ⅰ期】 5/17、5/24、5/31、6/7、6/14、6/21(全6回) 【令和元年度第Ⅱ期】 9/20、9/27、10/4、10/11、10/18、10/25(全6回) (85分×年3回)
■講座の様子	受講者は、幼稚園教諭免許または保育士資格を取得後、出産や子育て等で保育現場から遠ざかっている方、孫の子育て支援やボランティアを考えている方などである。現在も、保育所や幼稚園での研修を担当している6名の本学専任教員がリレー形式で講座を担当した。受講者数は年間で12名。 現代の子どもたちを取り巻く諸問題についての理解を深めながら、保育の専門知識・技術のブラッシュアップを効果的に行えるような題材を取り上げた。少人数制で教員との距離も近く、アットホームな雰囲気で開催した。 ①子どもの発達と保育者の関わり方 (0～6歳の子どもの心身の発達について) ②子どもの心のトラブルの理解と関わり方 (ちょっとした心のトラブルへの関わり方について) ③乳児を大切に保育する方法 (0～2歳児の育ち・育て方について) ④子どもの病気とけがの予防・対応 (日常的な病気の予防と手当について) ⑤言葉を育てる保育者 (子どもの言葉を豊かにする方法について) ⑥子どもの人間関係の理解と育て方 (3～6歳の子どもの心と人間関係について)
■参加者の声	・子どもと関わる時に悩んでいたことや現場で感じていた不安が解消された。 ・時間があつという間に過ぎてしまい、もっと話をお聞きしたい。快く質問にも答えていただき、とても充実していた。 ・松戸市は保育の研修など新しく学べるところが少ないので、講座で学べて良かった。今後も学びを活かしたい。 ・子どもとの関わりに自信がもてるようになり、前向きに取り組めるようになった。 ・保育関係の仕事から離れてから長いブランクがあったので、自信がもてなかったが、同じ気持ちをもつ人と一緒に原点に戻って学習ができ、充実感があつた。 ・孫の子育て支援をする際の参考にしたいと思った。
■「成果と課題」について	保育所やボランティアの現場で活躍する講師による実践的かつ最新の現場情報を取り入れた内容を行うことによって、受講者が託児施設の支援、子どもに関わるボランティア活動等に活かしたり、ご自身の子育てに役立てるなど、社会の要請に応えた講座であることが成果として挙げられる。 今後も、保育所等への再就職に結びつけていくことが課題と考えている。自信をつけた受講者がステップアップして再就職できるよう、保育士の待遇改善を進めている行政の動向と連動して支援を続けていきたい。

(参考) 令和元年度第Ⅱ期の講座案内

S-2

保育ブラッシュアップ講座

保育士採用数
13年連続全国1位
幼稚園教諭採用数
8年連続12回日全第1位
(2018年大学選考第1位)

9/20～10/25 (金・6回)
14:00～15:25

受講料

9,300円
 (入会不要)


 聖徳大学短期大学部教授
岡田 耕一

 聖徳大学教授
小櫃 芳江

 聖徳大学短期大学部教授
永井 妙子

 聖徳大学短期大学部教授
村田 カズ

 聖徳大学短期大学部専任講師
小原 貴恵子

 聖徳大学大学院教授
藪中 征代

「保育の聖徳®」で有名な聖徳大学・聖徳大学短期大学部の専任教員が講座を担当します。全員が現在も、保育所や幼稚園での研修を担当しています。

保育士資格や幼稚園教諭免許を活かして保育現場で活躍したい方、資格はなくてもボランティアとして子どもと関わる仕事をしたい方を対象に、保育の最新知識・技術をお話しします。この講座によって、自信を持って保育のお仕事をしてください。様々な年齢の方を歓迎します。

- ①子どもの発達と保育者の関わり方
(0～6歳の子どもの心身の発達について)
- ②子どもの心のトラブルの理解と関わり方
(ちょっとした心のトラブルへの関わり方について)
- ③乳児を大切に保育する方法
(0～2歳児の育ち・育て方について)
- ④子どもの病気とけがの予防・対応
(日常的な病気の予防と手当について)
- ⑤言葉を育てる保育者
(子どもの言葉を豊かにする方法について)
- ⑥子どもの人間関係の理解と育て方
(3～6歳の子どもの心と人間関係について)

講座風景



聖徳大学 生涯学習課
 〒271-0092 千葉県松戸市松戸 1169
 聖徳大学生涯学習社会貢献センター(聖徳大学 10 号館)
 TEL 047-365-3601(直通)
 FAX 047-365-1233
 E-mail soa@seitoku.ac.jp

子どもたちがつくる青少年会館居場所事業

青少年会館フレゼンツ 第1回

★ 松戸青少年会館

MATSUDO学生クイズ選手権

講座のねらい

小学生が夏休み期間などにスポーツやものづくりなど様々な体験活動を実施するプログラム、子どもたちがつくる青少年会館居場所事業。その一環として「子どもに関わる担い手育成」を行なっている。今回のクイズ選手権はクイズを解きながら、良いグループの作り方やコミュニケーションについて学び、小学生向けクイズ大会の企画・運営をすることで、大人と子どもの「あいだ」をつなぐ世代として、小学生と寄り添い、共に企画できる、ロビーワークの担い手の育成を目指す。

頭だけじゃない！
体も使って！



まずは実践！ クイズ選手権を体験してグループづくり
やイベント開催のノウハウを学び、企画に繋がります。

企画会議中！ アイデアを出し合っ
て、よりよいイベントを目指します。



ピンポン！

小学生クイズ大会スタート！



参加者の声

- ・小学生がどの問題にひっかかるか考えるのが楽しかった。
- ・小学生へわかりやすく伝えるにはどうすればいいか考えるのが難しかった。
- ・知らない人とのイベントの企画でも、途中から仲良くなれたのがよかった。また、小学生クイズ大会でも知らない人同士のチームで、途中から仲良くなっていく様子が見れてよかった。

成果と課題

成果：参加者がただイベントに参加するのではなく、自ら考え企画しイベントを運営する貴重な体験になったと思う。学校・学年の異なる参加者がイベントで協力し、終了後、連絡先を交換する様子が見られた。イベント終了後も青少年会館の他のイベントの手伝いを行なう参加者もあり、青少年の活動の場の提供にもなったように思う。

課題：クイズ選手権を体験した参加者のうち、小学生向けの企画に続けて挑戦した者は多くなかった。体験で終わることなく、次のステップへ、より魅力的な青少年の活動の場の提供を模索していきたい。

製造業向け新人育成研修

講座のねらい

初めて製造業・製造現場に携わる新入社員等を対象に、会社に戻ってから実務にスムーズに取り組めるよう、生産管理活動の基本的な考え方や取り組み方・生産業務の内容や改善の重要性の理解・改善マインドの向上等を習得するための研修です。

研修内容は「モノづくりの仕組みと方法の基本」[基本ワード（5S、目で見える管理、リードタイム、IE など）とその内容の理解][改善・改革の取り組み方][製造業での現場業務を担うための心構え]と、製造現場で役立つ基礎知識となっており、スムーズかつ前向きに生産活動に取り組めるようにします。

講座の様子

- ・講義と演習がベースです。
- ・講義は資料とパワーポイントで説明しました。
- ・グループワークを多く取り入れているので、グループ作業を何度も行うことで、多くの意見が出ていました。
- ・グループごとにリーダーを決めて皆で意見を出し合いながらまとめていき、内容は模造紙にまとめて発表しました。
- ・年齢が近いこともあり、意見も出しやすい雰囲気でした。

参加者の声

- ・会社の研修などで教えてもらえないことまで、学ぶことができた。
- ・普段、会社で聞いていても意味がよく分かっていないまま仕事をしていたが、今回深く意味や必要な理由を知る事が出来た。
- ・仕事をする上で重要な意識の持ち方を学んだ。改善の仕方やムダがなにかを考える方法を学べた。
- ・製造業における基礎知識や標準的な取り組みを学べたので、新しい見方を持って自社の固定された考え方の改善に取り組みたいです。
- ・新人だからこそ気付くこともあると思うので、周囲を良く見てムダや改善点を見付けられたらと思います。安全第一で頑張ります。
- ・何気なくやっていた事にもちゃんと意味があると分かったので、自分のやっている事をしっかり考えて仕事をしていきたいと思いました。
- ・全員で意見を言ったり、協力したりすることがとても参考になりました。

成果と課題

成果 日本における「モノづくり」の重要性、必要性を講義の中で伝えることができた。

製造業に就職した者同士の交流の場にもなった。

企業からも、新人に「製造業とは何か」「製造業の基本ワード」等を学んでから現場に就かせたいとの思いもあり、年々受講者が増えている。

課題 受講者が増えてきているなかで、1教室の人数を20名以内におさえ受講者全員が意見を述べられる場を提供していきたい。

チャイルドライン千葉 第12期受け手ボランティア養成講座

【講座内容】 (第1回～第3回：公開講座)

第1回「子どもの今 生きづらさを抱える子どもたち」 2月21日(木)

講師：橘ジュン氏(NPO法人BONDプロジェクト代表)

第2回「子どもの権利 基礎と擁護」 3月6日(水)

講師：中溝明子氏(弁護士、NPO法人子どもセンター帆希副理事長)

第3回「思春期の発達を学ぶ 男の子の性・女の子の性」 3月28日(木)

講師：鶴岡利江子氏(思春期保健相談士、千葉県助産師会)

第4回「チャイルドラインとは 歴史・理念・組織」 4月11日(木)

第5回「チャイルドラインの傾聴とは」 4月25日(木)

第6回～第8回「技法とロールプレイ 傾聴ワークⅠ～Ⅲ」 5月9日・23日・6月6日(木)

第9回～第11回「オリエンテーション・現場体験研修」 6月20日(木) 7月～8月

【目的】 安定した傾聴ラインを実施するために、受け手ボランティアを増やす。

チャイルドラインを知らせる目的を持って、公開講座を実施する。

子どもを理解する大人を地域に増やす。

【アンケートから】

- ・BONDの千葉支部を作れたら良いなと思いました。地域には子育て・若年層を暴力から守る団体や人がたくさんいます。チームでという考え方がすごく大切だと思いました。具体的なかたちを教えていただき、とてもありがたかったです。
- ・橘さんの言葉は、ひとつひとつ、とても聞きやすく心に届きました。女の子が「通訳として側にいて」と言ったことが良く分かります。子どもたちの声を聴くとき、巻き込まれず距離を保ち、立ち止まる時間を与えることができるような受け手を目指していきたいと思います。
- ・「権利」という言葉について改めて考えることができました。子ども一人一人が自分らしく生きていくことができる社会でないといけないと思いました。大人の関わりが重要であるという事も改めて考えさせられました。
- ・中学や高校の保健の授業でも性の話しは聞いたのですが、今日のお話の方がずっと分かりやすく、大切なことを学びました。自分を大切にすること「性」とは生きることであることを忘れないようにしたいです。

【成果と課題】

- ・子ども支援に携わる大人が増えた。
- ・子どもの今に関心のある方に活動の場を提案することができた。
- ・子どもの現状を多くの方に知っていただき伝えることができた。
- ・平日で4カ月間ほどの開催のため受講者が限られてしまう。今後は開催日および期間やプログラム構成を工夫したい。



講座名「東京 2020 おせっかい英会話」

講座のねらい

- ・困っている外国人に積極的に英語で声掛けできるように。国際人を目指す。
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。

第1回（5月14日） 第2回（5月28日） 第3回（6月11日） 第4回（6月25日）

講師：高田 玲子 氏



参加者の声

- ・聞くだけの講座ではなく参加型で楽しかった。
- ・CDを使ったヒアリングが良かった。
- ・具体的なアドバイスがあり勉強になった。無理なく英会話に入り込めて良かった。
- ・かなり実践的で分かり易く英会話のコツを学べた。
- ・初心者向けに2,3個の単語で通じる会話などを教わりたかった。
- ・語学講座にまた参加したい。

成果と課題

開催まで1年となり気運も高まって来た東京2020。市民の関心が高まってきたこの時期に英会話講座を考えたのはタイムリーだった。今回の講座の応募数も倍率2.3倍となった。語学講座は男性も参加しやすいためか、男性の応募者数が女性の半数近かった事は企画として良かったと思う。来年は東京オリンピック開催の年。応募者も多く男性の割合も高かったが、タイトルの「おせっかい」という文言が気楽に参加できる雰囲気を作り出していたのかもしれない。

講座は信篤公民館近隣に在住であり当館の英会話サークル講師も務められ、英語講師経験も豊富な講師にお願いした。今回は講師からの一方通行の講義ではなくグループワークやグループ劇の発表を加えるなどユニークな手法を取り入れ、参加者にも好評だった。

1回目は自己紹介、話しかけるきっかけ・困っている人への声掛けの例文を、2回目は英会話上達のコツや日本伝統の折り紙を介して外国人と仲良くなるワザを、3回目は機器を使ってヒアリング練習、道案内などの英語例文を学んだ。4回目は総まとめとして、英語人とおせっかい人との役割を決めた道案内の劇を4人グループごとに発表し、講師が講評するという講座だった。講義を聞くだけでなく自分たちの作ったシナリオで劇を発表するというグループワークでの講義は、受講者の英語レベルも同程度であったためか和やかな雰囲気の中、意欲的に取り組まれていた。充実した講座となったと思う。

講座名「究極のスキンシップ！愛犬にマッサージ」

講座のねらい

犬の健康を考え、スキンシップをとりながら、マッサージをすることで、愛情が深まり信頼関係も築くことができる。リンパマッサージで凝りをほぐすことにより、血液を促進する効果もあり、心身ともにリラックスする。カラダに触れる習慣をつけ、最高の癒しの時間を作る。

第1回（7月7日） 講師：井磧 宏子 氏

1回目は座学で、先ずマッサージを始める前の6つ注意点を学び、犬をなでる力は、200gで良いことを、はかりを使って実践した。次にリンパマッサージの概論基礎についてを学び、各自持ってきたぬいぐるみを使いながら四大リンパ節のマッサージテクニックを学んだ。



第2回（7月21日） 講師：井磧 宏子 氏

2回目、14日のドッグランは雨で中止となり、予備日の21日にドッグランで実施した。実際に愛犬にマッサージを行なうのは、難しさもあったが、気持ちが良くなってオキシトシンが出ている犬もいて、リンパマッサージの効果を感じられたと思う。



参加者の声

- ・人間にも応用できそうです。
- ・マッサージに力を入れ過ぎていたと実感しました。もっと優しさを意識してみようと思います。
- ・具体的に教えてもらい、順序だてて説明されたので、良かったです。
- ・説明が丁寧でわかりやすかった。犬の身体について、よくわかった。

成果と課題

市川市の公民館で、初めての試みとなる、犬の健康についての講座を企画し実施した。世界でも注目されているペットマッサージを、また企画したい。館外で行う場合の天候について、今回は長梅雨で実施できない不安もあったので、次回企画する際は、季節を選び行いたい。

ペットマッサージに関する講座は、今回初めてということで応募者も少人数であったが、受講者の関心は高く講師の話に集中して耳を傾けていた。講師の先生の人柄もあり、明るく穏やかな優しい口調で内容も分かりやすく、和やかな雰囲気の中講座が進められた。現在ペットと一緒に生活している方、特に高齢者にとっては大切な家族の一員であり、愛犬に対する愛情の深さが伺われた。2回目は、地域の塩浜ドッグランで実際に各自の愛犬とともに行われ、1回目の座学で学んだ内容を実技で確認することができ、受講者にとって満足できる内容だったと思う。

根形公民館・N.O.C 共催事業

「ねがたオープンキャンパス(愛称:ねこまろ)」

若者×地域×公民館＝「ねこまろ」



R1 ねこまろ

イメージキャラクター



通常版での勉強の様子



参加者みんなで集合写真



宿泊版でのまくら投げの様子

Q:ねがたオープンキャンパス(愛称:ねこまろ)とは。また、N.O.Cとは。

A: ねこまろは、根形小学校の子どもたちが、夏休みに公民館を開かれた「キャンパス」に見立てて、地域の若者や大人の協力のもと、勉強やいろいろな活動を体験する事業です。「ねこまろ」という愛称は「ねがた こうみんかんに あつまろう」というキャッチフレーズから名付けたものです。ねこまろの詳細は、右記 QR コードからご覧いただけます。また、N.O.C は、「Negata Open Campus」の略で、主に根形地区の大学生や社会人などで構成されています。令和元年度は、10～15人で活動しています。



若者の声から
始まった事業だ
ガウ!

《ねこまろのねらい》

- 1 地域人材の育成・発掘の場づくり
- 2 地域の多世代交流の場づくり
- 3 参加者の成長・成果発表の場づくり

《ねこまろ参加者の声》

- ・子どもたちとの交流をとおして、地元がさらに好きになった。また、地域の方々の協力に感謝している。(N.O.C)
- ・高校生になったら、N.O.Cとして企画及び運営に携わりたい。(小学生)

《ねこまろの成果》

公民館事業に高校生、大学生といった若者が参加するようになった。また、多世代交流が図られ、地域づくりに寄与している。

《ねこまろの課題》

企画・運営する若者の確保が最大の課題である。
⇒公民館として、日頃からコミュニケーションを図っていく必要がある。

《問い合わせ先》

袖ヶ浦市根形公民館 TEL: 0438 (62) 6161

FAX: 0438 (62) 6162 E-mail: sode63@city.sodegaura.chiba.jp